

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1173200559
法人名	株式会社 彩香らんど
事業所名	グループホーム田舎の家
所在地	〒355-0324 埼玉県比企郡小川町青山201-1 (電話) 0493-71-3133

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月10日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000円+実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	又は1日 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	83 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野崎医院、 いたう歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは郊外に位置し、建物の周りには林や山林が眺められ恵まれた自然環境にあり、リビングからは四季折々の変化を楽しむことができる。建物は木造平屋建てで室内は木の温もりがあり、和風造りが安らぎをもたらしている。利用者は思い思いの場所で過ごしており、リビングで編物をする方や居室で大正琴を弾いている方など、それぞれがゆったり穏やかに過ごしている。職員は自らの手で作り上げた理念を基に、利用者の尊厳を大切に日々の業務に取り組んでいる。4月からは認知症対応型通所介護を開始し、家族や地域の人々に喜ばれている。今後はグループホームと通所介護の融合、強化が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については職員会議で確認し検討したが、改善課題については改善計画シートなどは作成されず、具体的な取り組みには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については事前に職員が記入し、管理者を含めた職員会議で、評価を通じて客観的に日常業務を見直し検討、確認しながら行った。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催され、ホーム側からは事業報告、行事予定の説明、利用者の安全、ケアの質の向上に向けての取り組みなどを報告している。参加者の間では様々な意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしや健康状態などについては、家族の来訪時や電話、手紙で報告している他、ホーム広報誌「青山だより」を家族に送っている。意見、苦情については入居契約時に苦情受付窓口を案内し説明している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人とは、散歩に出かけた時などに挨拶を交わしたり、散歩の途中に休憩場所を借りたりしている。ホームは自治会に加入しており、地域の祭りや清掃活動などには積極的に参加している。また、広報誌「青山だより」を地域住民に回覧しており、広報誌を見た住民が防災訓練に参加して避難誘導の体験をするなど、日常的に交流がなされている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生活がゆったり、楽しく過ごせることを目指し、会社の方針を基にした事業所独自の理念を職員で作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて職員会議で話し合うとともに、事務所や玄関に掲示し職員間で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入しており、祭りや清掃活動など地域の行事には積極的に参加している。運営推進会議には、区長、民生委員の参加もあり、地域との情報交換がされている。また、ホームの広報誌「青山だより」を地域住民に回覧しており、行事の案内とともに参加を呼び掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、管理者を含めた職員会議で話し合われている。評価を通じて客観的に日常業務を見直し検討、確認をしたが、前回の改善課題については職員に改善意義の浸透が出来ていない。		評価の意義について職員全員で共通理解に努め、改善項目については改善計画シートを活用するなど工夫しながら具体的な改善に取り組むことを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されている。ホーム側からは事業報告、行事予定の説明や利用者の安全、ケアの質の向上に向けての取り組みなどについて報告している。また、参加者とは多様な意見交換が行われ、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から市町村担当者には報告や相談をしており、サービスの質の向上に向けたアドバイスをもらうなど連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などについては、家族の来訪時や電話、手紙で報告している。また、広報誌「青山だより」では行事の予定や利用者の様子などについて、写真を添えて定期的に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は順番に運営推進会議に参加している。また、家族会が結成されているため家族の意見を述べる機会があり、意見は運営に反映させている。不満や苦情については相談窓口を入居契約時に案内し説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットであることから利用者は馴染みの職員による支援を受けられている。離職予定者がいる場合は、利用者へのダメージを最小限に抑えるように配慮し、入職者と一緒に勤務に就く期間を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修については会社本部で行っている。内部研修としては、10月に救命についての研修を行い、11月には感染症についての研修が予定されている。外部研修参加者は報告書を提出し職員で共有しているが、職員個々に応じた研修を計画的に実施するに至っていない。		サービスの質の向上のためにも研修の意義を共有し、職員の段階に応じた研修計画などを立てることにより、可能な限り研修の機会を確保することが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市町村の同業者との交流があり、施設見学や情報交換などを行っている。また、その内容を他の職員に伝達してサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、ホームの職員が自宅に訪問し、家族からの情報収集と本人の状況を確認している。情報については職員会議で検討し、本人にとって一番よい対応を取っている。状態により同ホームの共用型デイサービス、隣接する通所サービスを利用し、徐々に馴染めるように家族と相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>散歩や買い物、ホーム内での趣味など本人の思いや意向を尊重し、その人らしく暮らし続けることができるような支援を心がけている。また、利用者から生活の知恵や体験したことなど教えてもらうなど、共に支えあう関係作りがなされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望については、日常生活の会話の中などから把握している。また、買い物や図書館への外出や神社へのお参りなど、出来る限り本人の希望に応えるようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所前の調査で得た情報などから、本人、家族の意向をふまえ、ケアカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を作成して日々の生活に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護保険の期間に応じた見直しを行っている。利用者の状態に変化が見られた場合は、随時ケアカンファレンスを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療との連携を取っている。また、家族に代わって通院介助をしたり、利用者が入院した際に洗濯を行うなど、家族の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にし、かかりつけ医の受診を支援している。また、提携病院の訪問看護を月に3回定期的に受けており、利用者の健康管理を行っている。提携病院とは24時間対応可能であり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは定期的な面談で終末期のケアについて話し合っているが、個別の希望に対する体制づくりには至っていない。		入居相談時に「重度化した場合における対応のあり方について」本人、家族の希望を聞き、ホームとして対応できる支援について検討し、対応方針を共有するとともに明文化するなど、前向きに取り組んでいくことが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないように、職員は穏やかな言葉かけや、ゆったりとした温かみのある対応をしている。プライバシーの保護、個人情報の取り扱い、守秘義務については入職時の研修で徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、起床、入浴、散歩など利用者のペースを大切にし、その日の気分や希望に沿ったその人らしい暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は会話を楽しみながら一緒に食事をしている。米とぎや食事の後片付け、皿洗いなど出来ることを職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き毎日風呂を沸かしている。利用者は一日おきに入浴を楽しんでいるが、希望があれば毎日入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の気持ちを尊重している。ホームの畑や花壇で野菜や花を育てたり、音楽や楽器の好きな方はホームの行事で伴奏をするなど、一人ひとりの生活歴を活かした楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	図書館や馴染みの美容院への外出や散歩など、利用者一人ひとりの希望に合わせた外出支援をしている。また、毎月レストランで食事を楽しむなどの支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの近くに電車の踏み切りがあることや、ホームの周辺は人の往来も少ないことから、職員の手薄なときに稀にやむなく施錠することがあるため、鍵を掛けないケアの実践について職員会議などで検討している。職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、利用者の状態を把握しながら対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署、区長、民生委員、地域住民の参加を得て防災訓練を行っている。なお、地域の人々には広報誌「青山だより」で案内している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を記録し、食事の量や栄養バランス、水分の確保に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は不快な音、光、臭いもない。リビングは日当たりもよく、窓からは四季折々の変化を見ることが出来る。また、廊下には行事のスナップ写真などが沢山貼られ、思い出を楽しむことが出来る。利用者の居場所もさりげなく確保されていて、居心地良く過ごせる配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、箆笥、テレビ、飾り物など使い慣れた馴染みの品物が持ち込まれており、本人が居心地良く過ごせるような工夫がされている。		